



第8回北海道食育推進優良活動表彰 受賞者活動紹介

森 志美江氏（大樹町）

教科の枠を超えた地域共創の取組として学校給食メニューの考案、子ども食堂との連携、学校開放、地域企業とのコラボ活動等

活動開始：平成25年（2013年）

地産地消と食文化

大樹高校では、平成25年に町の給食を利用できるようになったのをきっかけに、高校生考案給食メニューの提供がはじまった。地元の食材を知るための町内企業や生産者の講話、学校開放講座での料理教室、子ども食堂とのコラボ企画、地元企業とのコラボによる「ロケットパン」の開発に携わるなど学校から地域へ広がる取組を実施している。



行事とリンクさせた取組

見学旅行事前学習で見学先の食文化を学び調理実習を行うほか、防災避難訓練として備蓄食材、ポリ袋を使用した調理実習を行っている。



受賞コメント

食育を通した様々な食文化に関する取組が、少しずつ成果となって表れていると感じます。食育を通して地域とつながることが共生社会についての学びを深め、地元の資源（人、もの）を活用した学習活動が、地域理解や郷土愛を育むと考えます。

未来を担っていく子供達の「食」が少しでも豊かなものになるよう、今後も地域に根ざした取組をしていきます。



キャリア教育とリンク

「食」のプロとして、調理や製菓の現場や飲食店での接客業に携わる卒業生を講師に招く講座など、高い専門技術を学ぶ。給食をテーマとした活動から、人やものへの感謝の気持ちが育つほか、栄養士、調理師などの職業への理解が深まる。

